島根県公立小中学校
事務職員研究会
会　長　：　吉　賀　孝　則
（川本町立川本中学校）
編　集　：　情　報　部
VOL.79　2024.3.3（雛祭号）
発行責任者　　坂井　佳恵（大和中学校）
島事研ホームページ
http://shimajiken.com

爽

【　目　次　】

▸「つながる・つなげる～
合言葉は子どもたちの笑顔」
（益田教育事務所長　瀬戸　洋）
▸研究部コーナー
▸人事交流者として経験し感じたこと
▸津和野町の共同実施について
▸学校紹介
▸まんが「しまじぃとけんくん」
▸編集後記

「つながる・つなげる～合言葉は子どもたちの笑顔」

益田教育事務所長　　瀬 戸　洋

令和５年１１月、益田市において第５３回島根県公立小中学校事務研究大会が開催され、県内各地より多くの皆様にご参会いただき、盛会裏に終えることができました。

基礎研究発表では４名の方の実践から学ばせていただきました。予算の執行状況資料を視覚化し学校全体で共有化する取組、児童生徒目線での施設管理、地教委等との連携、働き方改革への取組の工夫‥様々な実践の具体からは学校の課題や現状を的確に把握され、その課題解決にあたって、周囲を巻き込んでチームとして機能させようと尽力されていることが伝わってきました。

午後からの教育研究家　一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事　妹尾昌俊様による講演は、演題を「学校を変える力になる～学校改善、業務改善の考え方と方法」としていただいた通り、多くの課題が山積する学校現場に勤める私たちにとって一つ一つのお言葉が胸に響き、明日からの勤務に勇気をいただけるものでした。

さて、手前ごとではありますが、益田教育事務所の今年度の経営方針は「つながる・つなげる～合言葉は子どもたちの笑顔」としています。それぞれの学校において、子どもたちが笑顔で学校に通えるように、そして、学校現場のすべての職員が生き生きと勤めることができるように支援していくためには、学校教育に携わるあらゆる人や組織が役割分担を再構築し、連携を一層強固にすることがこれまで以上に必要であるとの思いで掲げたものです。厳しい状況にある学校現場を支えることは、まだまだ十分とは言えませんが、今後もこの思いを大切にしていきたいと考えています。

学校事務職員の皆様にも、総務・財務の専門性を生かした学校運営への参画の拡大、教育の情報化への支援、働き方改革と業務改善の推進、事務グループ活動での人材育成など、それぞれの得意分野を生かして、学校教育の充実をめざし、これからも協働していただけるとありがたいです。

研究部コーナー

今年度の島事研研究部活動のまとめ

第六次研究中期計画がスタートして、２年目を終えます。

この研究中期計画では、島事研が考える「事務をつかさどる」とは、私たちの業務・仕事は、今のままでよいのだろうかという考えを基にして『業務の再設計』と『仕事の設計』を行い、それらを『再構築』することだとまとめ、研究を進めています。

そして、会員の皆さまには、「つかさどる」を形にするために、前半の令和４年度から令和６年度については、『基礎研究』を行う期間と定めて、会員一人ひとりの研究活動を、できる限り地域の組織でお互いにサポートし合うという形で、実践に取り組んでいただいています。

第六次研究中期計画の詳しい内容を記載した PDF ファイルは、会員の皆さまは島事研キントーンから、そして島事研の研究活動に興味を持ってくださった、他の都道府県の学校事務職員の皆さまは、島事研の Web サイトから、それぞれ閲覧・ダウンロードすることができます。特に会員の方で、まだ読んだことがないという方は、来年度以降の活動にも関わりますので、お読みいただきたいと思います。

さて、今年度の島事研研究部活動のまとめについてです。

今年度の研究大会においては研究発表のテーマを「業務改善」と定め、令和４年度の取組からステージでの発表、紙面での発表をそれぞれお二人ずつ行っていただきました。発表者の皆さま、研究大会発表にご協力くださり、本当にありがとうございました。発表の詳細については、会員の皆さまに「記録集」という形でお届けできますので、そちらをご覧ください。

ここでは、研究大会に参加された方から研究発表についてお寄せいただいた感想をいくつか掲載させていただきます。

○身近な題材から取り組み、深めておられて自身の学校でも頑張る気持ちがわいてきました。

○自分自身が今行っている取組と似た取組の実践についてのお話を聞くことができたので、今回の発表の内容を参考に、自校での取組をさらに良いものにできるよう頑張りたいと思った。

○紙面発表の発表者の意見をもっと詳しく聞きたいと思った。

○とても良かったですが、紙面発表の発表原稿ものせてもらえるともっと分かりやすかったと思います。

○自分にできる取組をされていた。成功したことだけでなくうまくいかなかったことも説明されよいと思う。

○市町村によって環境や条件が違うが、自校でもできることは「パクり」たいと思う。
今回の基礎研究発表をとおしてどのようにしたい（なりたい）かは個人研究となっているが、個人の資質をどのように高めていくかを各市町村単位でも考えられるようになるといいと思う。

第六次研究中期計画の中で、【研究発表は、互いに学校事務職員として『成長』するために、「それぞれの取組を広く発信し、共有する場」】として位置付けています。

発表者の方が共有してくださった取組をもとに自校の課題解決を図ろうとすることは、学校事務職員としての自分自身の幅を広げることとなり、それはそのまま『成長』につながることになると思います。そういった声が会員の皆さまから聞かれたことは、とてもありがたいことだと思っています。

また、【研究発表をきっかけに、発表者と参加者の新たなつながりが生まれたり交流が深まったりすることで、より「つかさどる」を形にしていくことができるのではないでしょうか】という提案をしています。

研究大会の場で様々な意見交流ができることが一番だと思いますが、現在のところ十分な時間を確保していません。紙面発表をしてくださった方の「研究の記録」も島事研キントーンに掲載されていますので、研究発表をきっかけに発表者と参加者の新たなつながりが生まれたり交流が深まったりするよう、研究部としても島事研キントーンのさらなる活用も含め、研究大会後も意見交換ができる場の設定を検討していきたいと思います。

研究発表に対し、様々なご意見、ご感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

人事交流者として経験し感じたこと

浜田教育事務所　総務課　大野　善功

先日、県外の学校で、学校徴収金業務をキャッシュレス化し、電子マネーの支払いを取り入れた記事を目にしました。もちろん、メリットだけではなくデメリットもありましたが、ついにここまで業務改善や、働き方改革が進んだのかと思うと同時に、学校現場を離れて２年、「今の時期は会計事務であたふたしていたな～」と思いを馳せる自分がいました。

さて、人事交流者として浜田教育事務所総務課で勤務させていただいた２年を振り返り、感じたことを少し書かせていただきます。

１年目はコロナ禍でした。初めて経験する業務もある中で、新規採用者の気持ちで総務課職員の協力を得ながら勤務をしていました。その中で、保健所での新型コロナウイルス感染症応援業務では、様々な経験をさせていただきました。印象に残っていることは、電話で患者の体調変化や行動履歴を聞き取り、濃厚接触者を特定するための迅速かつ正確な資料づくり。また、陽性者及び濃厚接触者に電話で状況を説明する時の接し方として、一方的なお願いだけではなく、不安に思っておられる方に丁寧な言葉で声かけをして、相手の思いに寄り添い話をすることが大切であることを学びました。今でも、来客への接し方、電話の応答などいわゆる接遇については、欠けていることが多くあり反省することばかりです。

２年目に入り、コロナウイルス感染症の位置づけが５類に移行されたことにより、浜田教育事務所管内６市町を訪問させていただく機会も増えました。特に、５月から６月にかけて、事務所長訪問に併せ総務課からも学校訪問をしています。各校の事務職員から市町の取組や、学校で業務改善をして工夫していること、また仕事に対しての思いや悩みを聴かせていただくことが、私にとってはとても新鮮なことでした。そこで感じたことですが、今までは、学校で一人職である事務職員は、それぞれの学校に配置された職員という個の意識が強かったように思います。しかし、共同学校事務室が設置され兼務がかけられて複数人で他校の事務も行い、また県費事務のチェック体制も整いつつある現在では、組織として職務を遂行し、より学校経営に参画しているという意識の変化があるように感じます。浜田管内の共同学校事務室には様々な体制や業務があり、室長の専決権や、地教委と連携した業務改善の推進、ＯＪＴの充実、少人数という利点を活かした室の運営と特性があります。これは、学校教育法第 37 条第 14 項に定める事務職員の職務規定が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に改正されたことによる変化だとも思います。しかし、「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に変わったことの本質は、必ずしも業務内容をどう変えるかだけではなく、学校経営を「自分事」の視点で捉えることだと感じました。その「自分事」の視点は、共同学校事務室という組織ではなくても、今置かれている環境の中で課題を見つけて、行政職としての視点から、様々な支援や裏付けを学校経営に活かしていくというものでした。こうして組織の違いはありますが、共通して言えることは、ビジョンを明確にして、意識や取組の方向性を共有して進めることができれば、目指すべきところは同じであることだと思います。

今後も、我々を取り巻く教育課題はますます多様化・複雑化するものと思われます。これからも、そういった諸課題に人事交流者として何ができるのかを考えながら、微力ですが皆さんと共に立ち向かっていきたいと思います。

津和野町の共同実施について

津和野町の事務グループ活動については、平成 19 年度から町教委が主体となり事務部門の強化を図るための共同実施が始まりました。令和元年度から町内全学校（中学校2校、事務職員未配置校1校を含む小学校4校）の事務職員に対しての兼務発令を受け、これまで以上に各校の連携と事務部門強化に向けた活動を進めています。

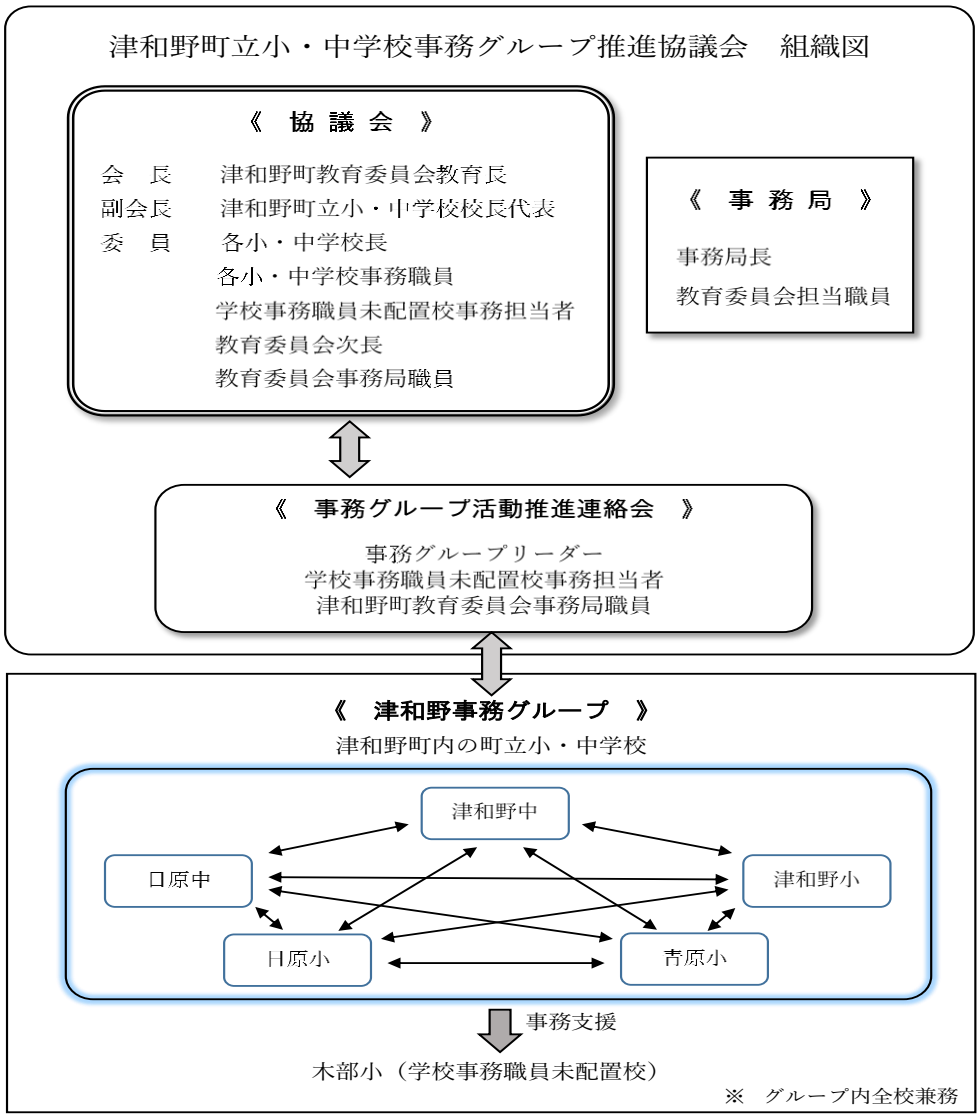
活動については、毎月実施する「事務グループ会」において全体に共通する課題改善に向けた検討や協議を行い、事務機能の強化を図る取組を進めています。また、各地区（津和野・日原）を主体とした「地区業務」では未配置校支援に併せ相互チェックや協働処理業務を実施し、グループ内 OJT により町内学校事務職員の資質向上・人材育成にむけた活動を行っています。

今後も町内全校が一体となった活動へと繋がるよう、町教委はもちろんのこと校長会や教頭会といった関係諸機関との協議や情報共有を行い、事務グループの活動をとおして特色ある学校づくりの推進や学校管理運営への参画へ寄与する取組を進めていきます。

事務グループ組織経営目標

- 各校が目指す特色ある教育が推進できるよう学校事務機能の強化を図り、学校運営に積極的に参画し学校教育の充実をめざす
- 学校事務・業務の適正化と処理体制を確立し、専門性を高め、正確で質の高い学校事務を提供する

組織概要図



今年度の重点目標

- 学校事務職員の資質向上により、事務の効率化・適正化の推進に努める
- グループ内相互支援体制を整え、適正で円滑な事務処理体制を構築することにより、町内各校の学校事務機能の強化を図る
- 学校事務職員未配置校への支援を継続・推進する
- 地域や保護者、教職員に対する町内各校と連携した情報発信の在り方を検討する
- 関係諸機関（町教委、校長会、教頭会等）との協力・連携を進める

今年度の取組

- グループ活動による OJT の推進と研修の企画運営及び実践交流による資質向上を図る
- グループ内事務職員の連携体制強化による学校運営支援を進める
- 津和野町における事務機能強化に向けたマニュアルや手引きの整備を行う
- 学校運営に寄与するため、先進的な取組や事例をもとにした改善の模索や提案を行う
- 学校事務職員未配置校への定期的な訪問と随時対応による事務支援を実施する
- 「つわのスクール NET」の改善と適正な管理・提供の在り方について検討する
- 町教委をはじめ校長会・教頭会との課題解決に向けた連携や情報共有の在り方を検討する

取組の主体「事務グループ会」及び「地区業務」

《事務グループ会》

基本毎月１回、町内全学校事務職員参加

- 町内全校における事務機能強化を図るため、課題の解決・改善に向けた検討や協議を実施
- 資質向上を目指した研修実施
- 適正かつ正確な事務処理のため相互チェック・情報共有を実施
- その他の活動

《地区業務》

津和野・日原それぞれで基本毎月１回、
未配置校支援と併せ各校通常業務を実施

- 適正かつ正確な事務処理を行うため相互チェックと協働処理・情報共有を実施
- 事務職員未配置校における事務機能の強化と平準化に向けた支援の実施
- 通常業務をとおしたグループ内 OJT の実施
- その他の活動

今年度は組織の運営に関して少し工夫を加えました

《 【拡大】事務グループ活動推進連絡会 》

（本来の機能は今後も確認し維持する必要がありますが…）
町内各校担当者が同席し検討が必要と思われる事項について
『【拡大】事務グループ活動推進連絡会』として協議の場を設定

- 学校予算に関する事項（予算要求、補正等）について、町教委担当者とともに町内全学校事務職員と未配置校教頭が参加し協議・検討
- その他、未配置校における課題や全校に共通する課題について、町教委担当者・事務支援グループ・未配置校担当者が協議を実施

運営要綱では「各校間の連携・調整及び協議のため」グループリーダー、教育委員会事務局職員、事務職員未配置校事務担当者で構成され、必要に応じて開催されることとなっています。
しかし、これまでも予算に関する協議は「事務グループ会」の中で実施している実績もあり、協議する場を設定することでより緊密に課題を掘り下げていく場として活用していくこととしました。

今後も事務グループ内相互の支援体制を構築し、
町教委ほか関係機関とさらに協力・連携した活動を しっかりと進めていきます！

学校紹介 浜田市立第四中学校

主任 久保田 雅之

戦後間もない昭和 22 年、本校は浜田・美川地域に浜田市立美川中学校として産声を上げ、昭和 25 年に改称し『浜田市立第四中学校』となりました。開校から 77 年、開校当時の木造校舎を残しながら現在 6 名の生徒が通っています。

本校の特色は、学校と地域との連携です。稲作活動やしめ縄づくりでは、講師として地域の方々が多く参加され、生徒をご指導いただいています。また、同じ敷地内に浜田市立美川小学校があり、前述の稲作活動や運動会など様々な行事を小中合同で行っています。

また、皆さんにぜひ紹介したいものが本校の校歌。本校の校歌は昭和 23 年当時の生徒たちによって作詞されました。「いざや美川を文化の園に」「いざや日本を民主の国に」「いざや地球を平和の空に」というフレーズが歌詞の中にあります。この歌詞には戦争を乗り越えた子どもたちの願いが込められていて、これまで四中生に大切に歌い継がれてきました。そして、これからも浜田四中に関わってきた人たちの心に残っていくと思います。

令和 6 年 3 月末で本校は閉校します。学校事務職員として、諸会計の締め方や備品譲渡、閉校関係の業務など通常では経験出来ない業務をしてきました。これらの業務の根底にあるのは、在籍している四中生が「浜田四中にいて良かった」と思って浜田四中を去ること。このことを心に留め、残り一か月を過ごしていきたいと思います。

原作・画　：　佐伯　圭一

【編集後記】

実家で片づけをしていたら、初任の時に小学校1年生の子が「〇〇さんのことがしんぱいです。」と私のことを書いてくれた作文が出てきました。あの頃よっぽど不安な顔をしていたんでしょうね(^^; この作文をもらった時の嬉しいと恥ずかしいが入り混じった気持ちが甦りました。あれから数十年経ちましたが、子どもたちに安心感を与えられるような存在でありたいと思うひと時でした。今年度も「爽」の発行に際し、多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。(Y･S)